

モデル経営体名：伊東 藏衛（三芳町）

展開：露地野菜の産地の強化に係る展開

経営概要 4.2ha（さつまいも 2.4ha、茶 1.8ha）
うち実証面積 さつまいも 0.7ha

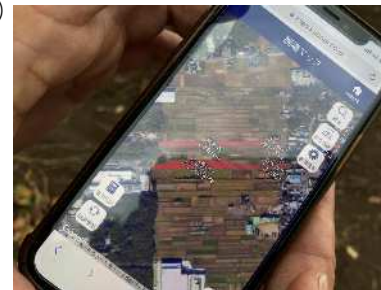
導入技術①直進アシスト機能付きトラクタ・クボタ・スラッガー（SL350HCQGSQF7C）

②ほ場管理システム・クボタ・KSAS

①



②



実証の状況

①実証の目的：

- ・直進アシスト機能付きトラクタによる耕うん跡を活用し、縄張り作業の削減を図る。
- ・直進アシスト機能により、長距離、長時間の直進作業による心身負担の軽減を図る。
- ・ほ場情報や作業進捗状況をデータ化し、作業者間で情報共有することで作業の効率化を図る。

②実証状況：

- ・縄張り作業（約12時間）が削減できたため、総作業時間を約10%削減することができた（図1）。
- ・土壌消毒や畝立て前の耕うん、残渣すきこみにかかる各作業時間については、慣行トラクタとの差は認められなかった。
- ・細かなハンドル操作による直進作業や前方確認の負担が減り、身体的疲労は10%減少し、精神的疲労は50%減少した（図2）。
- ・今後、KSASによる作業管理の活用法を検討する。

③モデル経営体の感想：

- ・長時間の作業における心身の負担が減り、作業が楽になった。
- ・各作業は低速での直進作業のため、作業時間が大幅に減少することはない。
- ・曇天や小雨などの天候時にGPSが受信されず、使用できない場面があったため不便を感じた。
- ・KSASの管理項目の設定がパソコンだけではなく、携帯でも設定できると使いやすい。

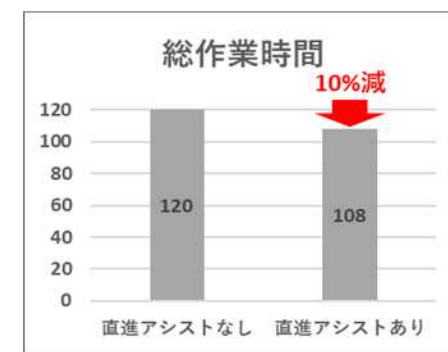


図1 さつまいも（2.4ha）の定植に係る総作業時間（hr）の削減状況

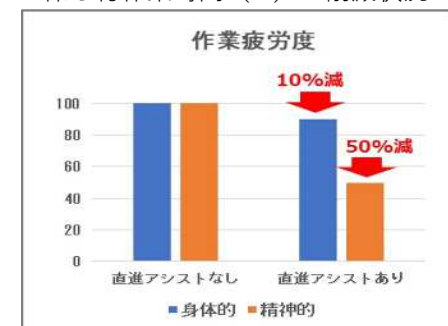


図2 作業疲労度の軽減状況